

かとう あかり
加藤 愛香里（医学群 医学類 5年）



ゆめ花火とは

筑波大学附属病院に入院中もしくは通院中の子どもたちに「ゆめの花火」というテーマで描いてもらった絵を、実際の花火にして打ち上げる企画です。打ち上げは雙峰祭後夜祭で行い、当日は絵を描いてくれた子や、入院中の子を招待して、花火を鑑賞しました。当日は13組43名のご家族にご参加いただきました！

「ゆめ花火」を想像してワクワクする、実際に観てドキドキする、そんなイベントを行うことで、子どもたちの闘病の励みとなるように、たくさんのサポーターがいることを感じてもらえるように、そのような思いから企画は始まりました。

子どもたちへの病气や入院の影響

子どもが年単位で入院生活を送ることは、その子にとって、どんな影響があるのでしょうか。薬による吐き気に悩まされたり、食事制限があったり、大きな手術をしたり…病院で行われることは、大人でも辛いことばかりです。そして、新しいことをどんどん経験し、心身ともに発達していく大切な時期に外に出られないことは、とても大きな制約となっています。子どもらしく、のびのびと過ごす時間を奪われてしまうのです。

ゆめ花火企画の流れ

そんな闘病生活に行ったゆめ花火。当日は夕方、子どもたちに病院に集まってもらい、「キラポン」という、光って身につけられるバッチの工作をしました。その後、飾り付けしたチャーターバスにて、花火鑑賞教室に向かいました。短時間でしたが、みんなでお出かけ、といった楽しい雰囲気のバス旅行でした。

鑑賞する教室では、五十嵐附属病院長からお話を

いただき、打ち上がる花火の絵を紹介しました。

今回のゆめ花火では、19の絵が集まり、53発の花火が打ち上がりました。花火の原案は、「ト音記号」「花粉症なめこ」「電車」「アンパンマン」「プリキュア」などさまざまでした。中には花火として表現できるのか、と心配になるような案もありましたが、とても素敵な花火となって打ち上がりました。

鑑賞後はバルーンアートをプレゼントし、バスで帰院しました。

参加者の感想は

「自分で描いた絵が花火になってうれしかった」「すばらしいイベントでした」「こんなに嬉しいことは久しぶりでした」「これが子どもの人生で初めての花火でした」などといった感想をいただきました。子どもたちははしゃぎ回り、とても楽しそうでした。また入院生活が長くなると、保護者同士の交流も広がります。ゆめ花火が、子どもたちだけでなく保護者の再会の場となり、ご家族で楽しんでいらっしゃいました。

最後に

今回のゆめ花火は、趣旨に賛同してくれた医療系学生の活動と、たくさんの団体にご協力いただいて成功しました。ありがとうございました。

そして、今後も闘病中の子どもたちに夢と希望を与えたいという目標のもと、たくさんの企画をしていきます！

ぜひ「つくばけやきっず」で検索してみてください。



タイトル「にじのはなび」



タイトル「花粉症なめこ」



花火鑑賞前に窓の前で並ぶ子どもたち